

令和3年度 学校運営評価（学校教職員評価）結果

1 評価方法

令和3年度の学校運営評価は、9分野 26 項目について、4段階評価で行った。

[4：十分に満たしている 3：満たしている 2：改善の余地がある 1：改善が必要]

2 学校運営評価結果

評価項目	主な内容	評価結果
I 学校経営	学校の組織運営、コンプライアンスの重視、組織全体のチーム力 (3項目)	3.1
II 教育課程・教育活動	教育目標、教育内容、授業・実習 授業評価・実習評価の活用 (5項目)	3.2
III 学習成果	単位取得への支援、国家試験対策、退学率の低減 (3項目)	3.5
IV 入学・卒業対策	入学応募者確保、就職・進路支援 卒業生への支援 (3項目)	3.4
V 学生生活への支援	健康管理、自主的な活動への支援、 学生意見の反映 (3項目)	3.0
VI 財政、施設設備の管理	適正な予算の執行管理、非常時の危機 管理体制、学校の建物・設備、学習の場 の確保 (4項目)	3.1
VII 教職員の能力向上	看護教育力向上への努力、能力向上に 対する支援 (2項目)	3.3
VIII 広報・地域活動	広報活動、地域社会の一員としての貢献 (2項目)	3.0
IX 各校独自項目	職員間の協力による働きやすい環境づくり (1項目)	3.1

3 学校運営評価結果の概要

- I 学校経営：コロナ禍により様々な影響が必要となっているが、教職員が協力し合って対応してきた。チーム力の一層の向上が必要である。
- II 教育課程・教育活動：コロナ禍において一部オンライン授業を活用し、感染リスクの低減を図りつつ教育活動を継続させた。臨地実習に関しては実習病院等と緊密に連携し、理解と協力を得て実施したが、校内実習に振り替えざるを得ないこともあった。
- III 学習成果：1年次から国家試験対策を意識した授業等に取り組んできた。教員による面接、専門のカウンセラーによるカウンセリング、マンツーマン指導等により学びの支援を行った。
- IV 入学・卒業対策：2年次より就職活動ガイダンスを行うなど、就職支援の充実を図った。学校説明会に関してはコロナ禍によりオンラインでの実施とせざるを得ない時も、実施方法を工夫するなどして学校の魅力の訴求に努めた。
- V 学生生活への支援：学生のアンケートをもとに施設設備の改善を行った。カウンセリングに関しても、相談機会が得やすくなるよう昨年度に引き続き回数増を図った。コロナ禍の影響で、学生の自主活動(サークル活動、ボランティア活動)ができない等の制約が生じている。
- VI 財政、施設設備の管理：経年劣化している設備の更新や災害対策において課題がみられた。
- VII 教職員の能力向上：オンラインでの研修等、工夫しながら能力向上への取組を実施した。
- VIII 広報・地域活動：学校・授業紹介動画の充実等により PR に努めた。地域への貢献に関しては、昨年度に引き続き学校祭を一般公開できないなど、難しい状況にある。
- IX 独自項目：コロナ禍の影響で、休暇や研修の機会が十分にとれないという状況が継続している。